



釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

■中■

扇谷さんの指導で本格的に

子供のころから絵画に親しみ、標津高校在学中に油彩画を始める。卒業後も家業の長谷川菓子舗で仕事に励む一方、自宅内で独学により油彩画を続けてきた。

この当時は「趣味という感じで創作していた」と言うが、昭和五十八年に知人の紹介で釧美展に初出品、翌年にも同展に

二作品を出品した。しかし、そのうちの二作品が落選したことで批評を聞きに行き、そこで知り合

けて以来「本格的に油彩画に取り組みようになった」と振り返る。

網の浮き玉など漁業のマチ標津を連想される物が描かれている。さらに、今年、道展会友賞を受賞した「カラシカラシ」については細かな描写で静物への追求力が増している。また、作品は油彩を

写実の限界に挑む

地元の静物を画材に

つた扇谷章二さんから油彩画についての技術的な部分を含めて、指導を受

たこの年に初めて道展に出品、平成四年に佳作賞を受賞、同六年にも道展

物を自宅居間のアトリエに置いて描き、自らのイメージを組み合わせた作品を作り上げていく。作品

薄く塗り重ねる手法をとっているため、同町文化ホールに展示されている百五十号の大作「S-30」は立体的な中にも水彩画を思わせる。

静物画については「私

静物画に自分らしさを出したい

抱負を語る。

同八年には道展新会友と

への出品作品にも必ず漁

静物画については「私

絵画

長谷川雅章さん(四四)

(標津町北一条東一)

にぎわう創業

グ、靴、ホームコレクション、ジュエリー、時計など

会場内は手頃なセーター

ンス。掘り出し物がたくさんあるので、じっくり見て